千葉市社会福祉協議会おゆみ野地区部会
設立20周年記念事業　映画上映会

日本中を深い感動で包んだあの物語には続きがあった！

ぼけますから、よろしくお願いします。
～おかえりお母さん～

日　時：２０２４年３月２日（土）

【午前の部】10:00～12:00（受付開始9:30）

【午後の部】14:00～16:00（受付開始13:30）

場　所：鎌取コミュニティセンター　３階　多目的ホール

参加費：無料　◎千葉市在住の方に限ります。◎諸事情により中止となることがあります。

主催：千葉市社会福祉協議会おゆみ野地区部会
共催：鎌取コミュニティセンター　　TEL:043-292-6131

人が生きて老いてゆく先には、必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして
感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子（監督・撮影・ひとり娘）

ロコミが広がり異例のロングランになった
『ぼけますから、よろしくお願いします。』
あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願いします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。

本作では、前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦労に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

東京で働くひとり娘の「私」は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた―

―2018年。―

父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるときのためにと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナが猛威をふるい面会すらままならなくなる。

母が認知症になっても、父は変わらず愛を注ぐ
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道

監督・撮影・語り：信友直子　プロデューサー：濱潤　大島新　堀治樹　制作プロデューサー：稲葉友紀子　編集：目見田健
撮影：南幸男　河合輝久音響効果：金田智子　ライン編集：池田聡　整音：富永憲一　製作プロダクション：スタッフラビ
製作：フジテレビ　ネツゲン　関西テレビ　信友家　配給・宣伝：アンブラグド
©2022「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえり　お母さん～」製作委員会
2022年／日本／ドキュメンタリー／101分／ビスタ／2．0ch　www.bokemasu.com